



「ジャパンSDGsアワード」受賞
総理大臣表彰



加藤官房長官

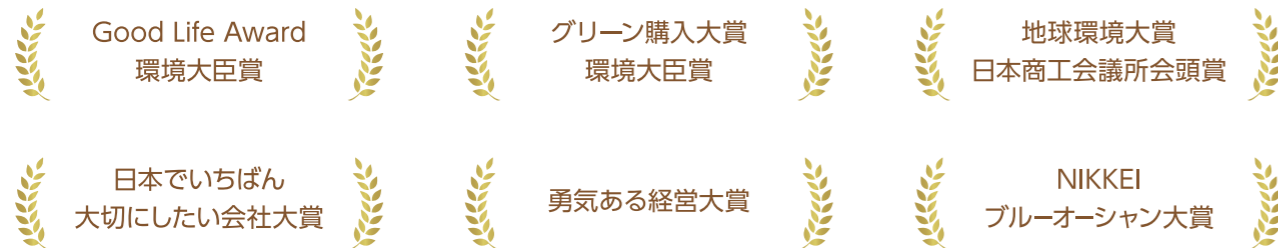
キミカ社長

菅総理大臣

茂木外務大臣

ジャパンSDGsアワード 表彰式(首相官邸)

日本政府から「国際的なロールモデル」と評され、環境大臣賞も2度受賞。
英国王室主催の環境賞「アースショット賞」にも2度ノミネートされました。



環境賞 優良賞 / 食品安全安心環境貢献賞 / 千葉元気印企業大賞 地球環境・社会貢献企業賞 / 防災×減災サステナブル大賞 / 紺綬褒章 / 建築物省エネ性能表示五ツ星 (最高位) / ちばSDGsパートナー / サステナブルセレクション三ツ星 (最高位)



岸田文雄氏

元内閣総理大臣

チリに漂着した海藻を原料に、ものづくりを手掛ける企業が日本にあること、そして、その素材が世界中で本当に幅広い分野で活用されていることに驚いた。



菅義偉氏

内閣総理大臣(当時)

多様な方々が英知を結集して行動した結果であり、大変感銘を受けた。経済と環境の好循環に支えられたポストコロナの新しい社会を作り上げていくうえでも更なる取り組みが必要である。



赤沢亮正氏

経済産業大臣

キミカは、日米の経済安全保障を確保するうえで非常に重要な役割を担っている。キミカの技術が世界を変えていくことを確信し、本気で応援していきたい。日本の技術が世界で活用されることは非常に誇らしいことである。



日本政府

(外務省)

本業で社会課題解決を実践すると同時に業界の世界トップメーカーに成長し、環境・社会・経済価値を両立した。SDGsに貢献する傍ら競争力を維持した実績は国際的なロールモデルと言える。



中井徳太郎氏

環境省事務次官(当時)

自然の恵みを、自然の摂理に合った形で人類の恵みに変える取り組みを地球規模で実践している。環境省がグローバルな取り組みを加速させるにあたり、大変参考になる事例である。



リカルド・ロハス氏

駐日チリ共和国大使

キミカは、多くの経験から海藻資源の保全が事業継続の最重要課題と認識して持続可能な発展に向けてさまざまな活動に取り組んできた。チリとキミカの関係は今後も素晴らしいものと確信している。



伊藤恭子氏

駐チリ日本国特命全権大使

キミカは非常に高く評価されており、チリ政府も関心を示している。まさに持続可能な産業の優れたビジネスモデルであり今後一層注目されるだろう。



上田隆穂氏

学習院大学名誉教授

本業そのものが社会課題や環境問題、貧困問題の解決に直結しており、サステナブル・マネジメントの典型的な実践例である。本業を通じたサステナビリティの成功例であり、持続可能な企業の在り方が表れている。



人を大切にする経営学会

アルギン酸の国内シェア90%を誇る業績面に加え、人を大切にする経営を愚直一途に実践されている点においてもモデル企業である。



グリーン購入ネットワーク

明確なビジョンに基づいた独自性があり、世界的なサプライチェーンに好影響を与えている。全てが自然の中で循環するビジネスモデルであり、大いに評価に値する。

Mottainai

もったいない精神



創業者 笠原文雄

**利用されず朽ち果てゆく漂着海藻を目にした
創業者のひらめきが原点です。**

1938年、笠原文雄は戦場から傷病兵として帰還。軍に転地療養を命じられ房総半島の浜辺に立つ療養施設に身を寄せました。見渡す限りに海藻が打ち上げられた海岸線は、信州育ちの文雄にとって新鮮な光景でした。

“海藻は島国・日本に与えられた天恵の資源。ただ腐らせてはもったいない。有効活用できないか—”

浜辺に打ち上げられる海藻は硬く食べられないため、地元の漁師には見向きもされない“海のゴミ”でした。戦火が激しさを増し物資不足に困窮した時代。無尽蔵に浜辺に打ち上げられる海藻を前に、文雄の思いは日に日に増していきました。

文雄は海藻の主成分である天然食物繊維「アルギン酸」に着目し、1941年、27歳にして日本で初めて安定供給体制を確立。房総半島に漂着する海藻からアルギン酸を生み出す事業を成功させ、キミカを創業しました。

Seaweed

漂着海藻の活用



チリの海岸に無尽蔵に漂着する海藻

**キミカのアルギン酸の原料は
硬くて食べることのできない漂着海藻です。**

高度経済成長期に入ると沿岸部の埋立てが進み、房総半島の海藻漂着量は大きく減少しました。そのためキミカは、1980年代以降、南米チリに漂着する海藻を原料として利用するようになりました。

南極から寒流が流れ込むチリ沿岸は、海藻の生育に理想的な環境で、大量の海藻が繁茂しています。これらの海藻は大きく育ち成熟すると岩から自然に剥がれ落ち、海を漂い海岸に漂着します。しかし、硬く食用に適さないことから、ほかに使い道がなく、長年未利用のまま放置されて二酸化炭素やメタンガスの発生源となっていました。

海藻の産地は日本からチリに変わっても、ほかに利用価値のない漂着海藻を有効活用することには変わりはありません。キミカは創業以来、海藻からしか得られない素材を海藻を刈り取らずに供給し続けています。

Collection

漁民の海藻収集



漂着海藻を収集するチリの漁民

ライフサイクルを終えて打ち上げられた海藻を手作業で拾い集めています。

海外のアルギン酸メーカーの中には、船で沖に出て、生きた海藻を刈り取って利用している企業も少なくありません。しかしキミカは生きた海藻の刈り取りは行わず、人手を掛けて拾い集めた漂着海藻を原料としています。

正当な漁業権を有する漁民が環境保護のためのルールに沿ってひとつひとつ手作業で海藻を拾い集める方法は、船で刈り取る方法に比べて、手間もコストも掛かる方法です。しかしキミカは1980年代からチリに進出して独自のサプライチェーンを構築し、世界で最も有利かつ安定的に海藻の買付を行う体制を整えて、経済価値と環境価値を両立しています。



生きた海藻の刈り取りは生態系を破壊します。海藻に限らず、周囲の生態系にも影響を及ぼします。

ライフサイクルを終えて自然に漂着する海藻を収集して利用することは海洋生態系を犠牲にすることなく海洋資源を有効活用する素晴らしい方法です。

—— 北カトリカ大学 教授 Julio Vásquez

Sun-Dried

天然の乾燥機



砂漠に面したチリの海岸線

拾い集めた海藻はアタカマ砂漠で天日乾燥しています。

濡れた海藻は腐りやすいため、すぐに乾燥させる必要があります。しかし、海藻は重量の9割が水分であり、毎年何十万トンという海藻を乾燥機で乾かすには、膨大な電力が必要となります。

チリ北部の海岸は“地球上で最も乾燥した場所”としてギネス世界記録にも認定されたアタカマ砂漠に面しています。キミカではこの気候条件を利用して、電力を消費することなく海藻を天日乾燥しています。

自然を活かしたこの方法は、環境負荷を低減するだけでなく、キミカのコスト競争力の源泉にもなっています。



チリでの漂着海藻の天日乾燥

Originality

環境配慮の独自製法



アルギン酸の抽出ライン

電力や化学薬品の使用を最小限に抑えた 独自製法でアルギン酸を分離しています。

キミカでは、重力(比重差)を利用した「浮上沈降分離法」によって海藻抽出液からアルギン酸を分離しています。これは創業者が独自に考案した方法で、特殊な処理を施した海藻抽出液をタンクに静置しておくだけで、電力や化学薬品に頼ることなくアルギン酸と海藻残渣を分離できます。

競合他社が大量の電力や化学薬品(ろ剤)を必要とする新型の機械を導入して粉の白さや溶液の透明度を競い合うなか、キミカはアルギン酸に求められる実用物性を見極めて古典的な方法にこだわり続けてきました。

このこだわりは、環境負荷を低減しただけでなく、製造コストも低減し、キミカが日本唯一のアルギン酸メーカーとして生き残る原動力となりました。



工場の屋根には1,322枚の太陽光パネルを敷き詰めて、毎年200トンのCO₂を削減しています。

屋上のパネルは直射日光による工場内の室温上昇を抑制することによってもエコに貢献しています。

Circularity

海藻残渣の活用



マイポバレーに広がるキミカのブドウ畑

アルギン酸を抽出したあとに残る海藻残渣は 飼料や肥料として余さず有効活用しています。

化学薬品(ろ剤)を投入せずにアルギン酸を分離すると、残った海藻残渣は産業廃棄物にならず、飼料や肥料、土壌改良剤として有効活用できます。そのためキミカの工場から出る副産物(海藻残渣)は、資材として販売され、養殖場や農場で活用されています。

天恵の資源である海藻を余すところなく有効活用する—「もったいない精神」はキミカのDNAとして根付いています。



キミカ ワイン[Don Mampei]

ワインの銘産地、マイポバレーに立地するチリの工場では、アルギン酸を抽出した後に残る海藻残渣を肥料に自社でブドウの栽培を手掛けています。

通常は1本の木から3~5本のワインが造られますが、ここでは1本の木からできるワインが1本になるまで果実の剪定を繰り返し、果実味を凝縮しています。

選りすぐりの苗を無農薬で育てる日本人ならではの丁寧なものづくりにより生み出された至高品は、チリ政府からチリを代表するワインと認められ、大阪・関西万博のチリパビリオンでふるまわれました。

Livelihoods

貧困問題の解消



漂着海藻を収集するチリの漁民

キミカのサプライチェーンが チリの漁民の生活水準を飛躍的に向上させました。

海藻は需給バランスの変化によって価格が大きく上下します。チリ北部では1万人余りの漁民が海藻収集で生計を立てていますが、収入が安定せず、不安定な暮らしを余儀なくされていました。

キミカは1980年代にチリに進出し、現地の海藻調達会社3社に資本参加して、市況に惑わされることなく継続かつ安定的に漁民から海藻を買い取っています。さらに、常時大量の在庫を持ち需給のバッファーとしての役割を果たすことで、海藻価格の乱高下を抑制しています。こうした取り組みにより、投機的な海藻乱獲を抑制し、漁民の収入も安定化して生活水準を飛躍的に向上させました。

“キミカのおかげで海藻の価格が安定するようになり、私たち漁民の暮らしは飛躍的に良くなりました。漂着海藻の収集で生計を立てている漁民はとて多く、この地に生活の拠点を置いています。

— チリの海藻収集漁民

Community

地域社会への貢献



キミカ提供の飲料水を汲む地域住民



寄贈した4WDの救急車



寄贈した救助工作車

地域の安心安全と 豊かな町づくりに貢献しています。

チリの工場周辺では水不足が社会問題化しており、飲料水や生活用水を井戸水に頼る地元住民にとって深刻な事態となっています。そこでキミカは、近隣に9つのタンクを設置して近隣住民に向けて清潔な飲料水を無償提供しています。

大使館と共同で、地元自治体(パイン市)に日本製の救急車と救助工作車を寄贈し、地域の安心安全にも貢献しています。

日本でも福祉向上のための寄付、花火大会への協賛、地域清掃のボランティア活動、高校での出張授業などを通じて街づくりに貢献しています。

“キミカはパイン市の誇りです。これまでのキミカの取り組みに心から感謝します。
— パイン市 市長 Diego Vergara氏

“キミカは町に9つのタンクを設置して、私たちに飲料水を提供してくれています。水不足には困っているので、心から感謝しています。
— パイン市 地元住民